

八尾市教育センターNEWS

令和5年10月

所報：390

相談支援係
072-941-3365

情報チーム
072-943-5785

研究研修係
072-943-5784

教育センター
Web page は
こちらから



「オンライン学習支援、オンライン de 居場所」

八尾市教育センターでは、昨年度より八尾市の新たな取り組みとして八尾市不登校等児童生徒対策支援事業（ほっとはあとサポート事業）を進めています。学校への登校が難しい子どもが、周囲の人とつながりながら、自分のペースで学習やさまざまな体験に取り組む支援として、2次元のバーチャル空間での「オンライン学習支援」「オンライン de 居場所」を行っています。病気や不登校で欠席している小中学生がICTを活用した交流活動や学習を通して、人との関わりや学ぶ喜びを実感し、社会的に自立していくことをめざします。

「オンライン学習支援」では、漢字の読み取りや書き取り、100マス計算等を学習準備として行い、個別学習として学校からのプリントやワーク、eライブラリ、全体学習として、動画視聴を通して考えたり、道徳や創作活動を行ったりしています。

「オンライン de 居場所」では、2次元のバーチャル空間でアバターを使いながら、交流活動として様々なクイズや絵しりとり、簡単なゲームなどを行っています。

現在のところ、中学生の参加が多いですが、それぞれ自分のペースで参加し、学習に取り組んだり、交流活動を楽しんだりしています。学校への登校が難しい児童生徒がオンラインを活用することによって、不登校の期間が長期化しないよう、個々の児童生徒の状況を踏まえつつ支援し、次のステップにつなげるように進めています。

※eライブラリ：個人に貸与された端末で、各自が行うデジタルドリルです。

※アバター：仮想空間上に登場するユーザーの分身となるキャラクターです。ここでは自分で選ぶことも作成することもできます。

《イメージ図》



内容別特別支援教育研修 B

支援教育で大切にしていること

- ◆3年間程度の長期目標をもとに、今、身につけたいスキル(短期目標)を考える **計画性**
⇒個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成・活用
- ◆チームで行う支援教育 **チーム力**
“きれめない支援”を ⇒校内支援体制の充実
- ◆かかわりの糸口を見出すのが難しい子 **情報共有**
・・・うまくいく場面の中にあるちよっとした「手がかり」を分析

令和5年9月15日(金)午後3時30分～午後5時に内容別特別支援教育研修 B を行いました。講師は大阪府立東大阪支援学校の西村典子教諭と村松寛子教諭で研修テーマは「肢体不自由のある子どもの理解及び指導の実際」です。

← 研修で使用したスライド資料

＜受講者感想＞

- ・多くの授業実践を紹介していただいて、これからの授業に活かそうなところがたくさんあった。子どもたちの発達段階に合わせた活動がとても参考になった。小学校

の体育の授業では、様々な仕掛けの中で自発的な挑戦を促す工夫がたくさんあり、きっかけづくりが大切だと実感した。

- ・中学部の授業紹介において、ノート型端末を操作しながら絵本を鑑賞するという授業が、とても興味深かった。普段の授業でも形を変えて取り組んでみたい。
- ・障がいの有無にかかわらず、支援者・保育者が子どもたちから発信される小さなシグナルを大切に受けとめることが、子ども達の発達にとってとても重要であることを改めて確認することができた。

通級指導教室担当者会⑥

**コミュニケーションへの支援
(ルール提示)(めあて)**

<p>聞くとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を話し手むけて聞く ・視線を相手むける ・相槌をうちながら聞く ・わからないことは質問する ・最後まで聞く ・相手の表情を見る 	<p>話すとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞く人を見ながら話す ・質問されたことに答える ・今の話題に関係のあることを言う ・相手との距離を考えて立つ ・声の大きさ、表情にも気を付ける ・「私は～と思います」などの視覚的提示
---	--

令和5年9月22日(金)午前9時30分～午前11時30分に通級指導教室担当者会⑥を行いました。講師は一般社団法人発達支援ルーム「まなび」の今村佐智子理事で、研修テーマは「聞く・話す(コミュニケーション)」です。

← 研修で使用したスライド資料

＜受講者感想＞

- ・聞く・話す・コミュニケーションに課題のある児童が複数通っているのも、とても参考になった。その課題以外にもアンガーマネジメントなども必要な児童が多いので、1対1で進めたり、グループ学習したりしていきたい。
- ・様々なソーシャルスキルトレーニングを紹介していただいた。子どもの状態をしっかりとアセスメントし、その都度目標を明確にして取り組む実践の積み重ねが子どもの成長につながっていくのだと実感した。また、子どもと楽しみながらゲームを手作りし、ルールも一緒に考えることが大切だと感じた。

教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っております。今回は9月から10月に配架した雑誌の誌名と目次の一部を紹介いたします。

「指導と評価」（日本教育評価研究会） 10月号

- ・特集 教育・心理検査の意義と活用

「道徳教育」（明治図書）10月号

- ・特集 教材提示 とびきり アイデア集

「月刊学校教育相談」（ほんの森出版）10月号

- ・特集1 子どもを「注意する」ときの工夫
- ・特集2 教職大学院で現場教員が学ぶということ

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育研究連盟編集・東洋館出版社）10月号

- ・特集 自立活動の指導の充実とカリキュラム・マネジメント
～自立活動の指導と各教科等とのつながり～

「初等教育資料」（文部科学省教育課程課・幼児教育課編集・東洋館出版社）10月号

- ・特集Ⅰ よりよく生きるため基盤となる道徳性を養う道徳教育の充実
- ・特集Ⅱ [理科] 学習指導要領における指導のポイント
課題を踏まえた理科の学習指導の改善・充実への取組

「中等教育資料」（文部科学省教育課程課編集・学事出版）10月号

- ・特集 通常の学級における障害のある生徒への支援の充実

教育科学「国語教育」（明治図書）10月号

- ・特集 どうつくる？教師のいない国語授業

教育科学「国語教育」（明治図書）10月号の特集は「どうつくる？教師のいない国語授業」です。教師を主たる読者としている雑誌が「教師のいない」という特集を組んでいます。今はやりのAIに教えてもらおうというのでしょうか。このことについて「提言」として北海道大学の守屋淳教授が「歴史から紐解く『教師のいない』授業」という文書を寄せて説明しておられます。現行の学習指導要領では資質・能力を育むためには主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が必要であるとされています。だからと言って守屋教授は「教師がいない」と言われているのではなく、「教師が与える教育観」から「教師が支える教育観（子どもが学ぶ主体となる教育）」への転換が必要だと述べられています。この考え方の系譜は少なくとも大正自由教育まで遡ることができるそうで、東京の一部の私立学校やいくつかの師範学校附属学校等では実践されたそうです。戦時中には国による制約はあったものの、戦後の教育改革では民主主義国家の建設を目指して全国でも主体の教育が行われようとしたそうです。ところが朝鮮戦争勃発、東西冷戦構造確立などもあり、高度経済成長政策の中で政財界からブレーキがかけられ、学問の論理に従っ

て系統的に高度な内容を子どもたちに習得させるべきとの方向性が打ち出されたそうでこの政策は一定の成果は上げたものの、一方で授業についていけない子どもの存在が問題になりました。そこで教育内容の削減や子どもが主体的に学ぶ態度を評価しようとして「関心・意欲・態度」という評価の観点が見られると共に「総合的な学習の時間」が設けられたとのことです。しかし、これがうまく根付かなかったり、学力の国際比較で順位が下がったりして、結局逆戻りしてしまったそうです。そんな中で出されたのが現行の学習指導要領の方向性です。「世界の趨勢、時代の不確定さを考えると出さざるを得なかったのかも知れない」と守屋教授は考えておられます。大正から令和までの流れを説明されています。これが「歴史から紐解く」と題された所以です。「支える教育観」のメリットについて3点述べられています。①教えられた知識より主体的に学んだ事柄の方が身につく他の場面でも活用できる。②民主主義国家の担い手としての構えが身につく。③主体的に生き、学ぶ喜びを感じられる。いいことだらけのようですが、一歩間違えると「教師不在」のほったらかし教育になり、失敗に終わる可能性さえあります。主体的に学ばせるための工夫が教師の側に必要です。そのための国語科におけるヒントが掲載されています。(葭仲)

教育科学「社会科教育」(明治図書)10月号

- ・特集 名著&最新事例でおさえる!必ず読みたい「読書」ガイド

教育科学「社会科教育」(明治図書)10月号の特集は「名著&最新事例でおさえる!必ず読みたい『読書』ガイド」です。社会科に関する100冊以上の本が紹介されています。その中から私目線で選んだものを何冊か紹介させていただきます。

- ・樋口雅夫教授(玉川大学)推薦

『君たちはどう生きるか』吉野源三著、岩波書店、1982年

今年7月に公開されたスタジオジブリ制作の映画のタイトルでもあります。最初に出版されたのは1937年です。推薦者の樋口教授が学生時代に初期社会科教科書を研究するにあたり恩師から勧められたそうです。15歳の少年「コペル君」の成長を描いています。1937年(昭和12年)と言えば日本は軍国主義が支配していて日中戦争が激化した年です。世の中は渦を巻いて戦争へと進んでいた時代です。そんな時代であっても、人の生き方を問いかけるこの本は戦後においても大きな意味を持ち、多くの人に読まれています。

- ・福田喜彦教授(兵庫教育大学大学院)推薦

『社会科とその出発』上田薫著、同学社、1948年

『社会科の本質』馬場四郎著、同学社、1948年

『社会科の実践』木暮強・染田屋謙相著、同学社、1948年

いずれも手に入りにくい本ですが、1948年に出版されたという共通点があります。それは社会科という教科が1947年に成立したからです。『社会科とその出発』の著者上田薫氏は初期の学習指導要領作成にも携わられました。社会科は戦後の日本を形作るために誕生し、戦後教育改革の「花形」とさえ言われました。その後「暗記教科」などと言う人もありましたが、現在のような先の見えづらい時代に合っては、社会科の存在意義は輝きを取り戻すのではないのでしょうか。(葭仲)

「新しい算数研究」(新算数教育研究会編集・東洋館出版社)10月号

- ・第1特集 測定領域における数学的な見方・考え方とその成長とは
- ・第2特集 ①単位をつくり、活用できるようにする
②下学年における割合の見方を培う